

日本人会南十字星創刊60周年記念 本は友達～図書ボランティアの思い出



「古本セールとの出会い」



外国にしながら、ページをめくり日本語を読むという幸せな時間を、老いも若きも楽しめるのは日本人会のお陰です。

私は2022年度の図書室運営委員会部長を務めました。

日本人会の図書との出会いは、2012年春娘の日本人学校への入学手続きを前に日本人会に入会した頃に遡ります。新しい暮らしを整える日々が落ち着き、改めて館内を“探検”に行った時、目に飛び込んで来たのが、数え切れないほどの本が所狭しとアトリウムに並んでいる光景でした。古本セールの幟(のぼり)に、驚きと歓喜の気持ちで階段を駆け上り、その日は(今でも覚えています)78冊買いました。海外への引越で、読み親しんできた本をどうするか悩むご家庭は多いと思います。我が家も最小限の本だけを船便に託してシンガポールにやって来ました。あの日、何十箱もあるケースの中に詰められていたのも、恐らく同じ思いでシンガポールに大事に連れてこられた本たちでした。それらの本を新しい本棚に収めた日、新居が我が家になった瞬間でした。



以来、古本セールでは数えきれないほどの良い出会いがありました。本は友達です。海外に住みますと、その思いはより一層強まります。読みたかった本に巡り合う喜びや、知らなかった著者やジャンルの本を手取る喜びもありました。日本では手に取らないような本に運命を感じてしまう、それが古本セールの醍醐味です。

図書室運営委員会

2019年、長く活動を続けていた友人からの誘いで活動に参加することになりました。長年お世話になった古本セールに恩返しの軽い気持ちでしたが、毎週寄せられる寄付本の多さ、種類の豊富さには驚きました。先にシンガポールを離れた会員の方々の知識、見識の幅広さに触れることも度々でした。当時は古本整理の他に、図書室の整理や新刊図書の選定など、図書にまつわる様々な活動も含まれていました。

古本の整理でも、新刊の選定でも、協力しながら作業を進めることが出来たのは、利用する会員の方々、活動する部員たちの「本好き」という頼もしい共通点です。海外引越しの梱包の際、寄付本を分けて



古本セール開始前の様子



古本セールにはいつも長蛇の列

日本人会に届けてくださる日通さんのご協力も然りです。様々な人種が暮らすシンガポールですが、本に親しむのは日本人の美德と言って良いのではないかと思います。

2020年から2021年にかけてはコロナ禍で図書活動は大きく制限されました。古本も行き場をなくし、日本人会の担当の方もご苦労されたと思います。制限が緩和された2022年は、経験が浅いながら部長となり、全方位的に周りの方に助けて頂き、古本セールを再開した時の安堵の気持ちは忘れられません。

余談ながら、私はシンガポールバレエのアンバサダーも務めており、この時は非会員も購入可能な日に日本人ダンサーの皆さんをお誘いしました。普段は日本人コミュニティと接点のあまりない方々ですが、公演の週にも関わらず大喜びで来てくれて、後に引退されたダンサーのお一人が「あの時、買った実用書がセカンドキャリアを考える時にとても参考になりました」と教えて下さった時、良かったと思いました。

会員に限らず非会員の方々にも、本に親しむ機会を共有する、コミュニティとしての日本人会の良心を感じます。



シンガポールバレエのダンサーさん達が手にしている本は、「バレエなんかきらい」



老若男女が楽しめる古本セール会場の様子



古本セールボランティアの方々によって整理された古本たち

寄稿するにあたり、以前一緒に活動していた方々や、利用されていた方々にお話を伺うと、皆さん、異口同音に仰るのは、日本人会で出会った本に助けられたり、楽しませてもらった、ということです。新しい趣味に繋がった、新しい視点ももらった、子供の学力が伸びたなど、本にまつわる良い思い出をたくさんお聞きました。

シンガポールで育った娘や日本語補習授業校の友人達が、リーズナブルなお値段で、乱読の機会を得て、読書を一生の楽しみにすることが出来たのも古本セールがあったからこそでした。外国にいながら、ページをめくり日本語を読むという幸せな時間を、老いも若きも楽しめるのは日本人会のお陰です。

ボランティア活動を離れた今は、一会員として、図書室の改装と共に、古本セールの復活のお知らせが届くのを楽しみにしております。南十字星創刊60周年おめでとうございます。

文責・写真:ヤング靖子
写真提供:図書室



古本セールボランティア作業風景



本を愛するボランティアの方々による作業風景